

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和6年 7月12日（金） 発行人：校長 森内 秀学

命の外部委託

以前、県庁に勤めていたとき、県内各地に配付する資料を一人で袋詰めしていたところ、事務職員にこう指摘されました。

「森内先生、ご自分の時給分かっていますか？先生が長時間残業して県民の税金から残業代を支払うより、運送会社に外部委託した方が安いし早いし、県民のためになります。今後、こういった作業は、外部委託するようお願いします。」



自分の担当の仕事は、最後まで自分の手で、責任をもってやるのが正しいと思い込んでいた私は、この「自分の仕事を外部に委託する」という考えに大変驚いたのをよく覚えています。

さて、7月10日に、時津中学校校区の「地区PTA 報告会」が、コスモス会館で開かれました（左）。

話題になったのは、「校区内にどれほどの危険が潜んでいるか」ということと、その「危険から子どもを守るべき人は誰か」ということでした。

取りまとめられた資料には、見守り活動で支えてくださっている地域の方への感謝の言葉や、行政への要望に加え、保護者からのこんな意見が載っていました。

- □□と△△に、旗持ちまたは見守りが立ってほしい。
- 旗振り活動は親の負担が大きいの、危険運転も見られるので責任が大きすぎる。場所や時間帯の見直し、活動日の削減、場所によっては外部委託など検討をお願いしたい。

こういった意見に対し、参加されていた方々から、次のような意見が出ました。

「正直な気持ちなのだろうが、親の他人任せなところが透けて見える。子どもも孫もいない人たちが、その責任ある仕事を毎日やっているのだ。要望も大事だし、仕事が忙しいのもわかっている。でも、現状の中でどうするかを検討することが、命を守るためには大事なことだ。そのためには、まずは保護者が我が子に、『自分の命は自分で守る』という意識を植え付け、責任をもって交通指導をすべきではないか。」

会場には、見守り隊や地域の方々の大きな拍手とともに、参加されていた保護者の方々のうなずきの波が起こりました。うなだれた方もおられたかもしれません。

お金や効率の面から、外部委託をしてもよい仕事はあるでしょう。忙しいから当番の仕事をできない方もいる。それをわかっているからこそ、地域の方は危険な仕事を無償で肩代わりしています。全員が平等に旗振りをやるべきだとは、誰もおっしゃいませんでした。

道路が整備され、車は増え、事故の危険は増すばかり。朝早くから出勤するご家庭がほとんどです。そんな中、子どもの命は、誰がどうやって守るべきなのか…。

根本的な考えに立ち戻る時期が来ていると感じた、地区PTA 報告会でした。